

ヤマコンが生コン1昼夜連続打設

相馬地上式LNGタンク整備

福島ガス発電の委託を受け、4月からIHI・清水建設JVが建設を進めている、相馬地上式LNG（液化天然ガス）タンクの2基目の基礎版コンクリート打設が、9月30日と10月1日の両日、現地で行われた。打設作業を担当するヤマコンが、単独で合計9800立方メートルの生コンクリートを1昼夜連続で打ち込んだ。

2基ともに容量は23万キロリットル。基礎版の直径は92・5メートルで、一般部のスラブ厚は1・3メートル、壁を支える外周部は1・7メートルとなる。第1タンクはほぼ完成しており、第2タンクの工期は2020年8月31日まで。

作業は午前5時から始まり、延べ2300台のミキサ車が搬入

同タンクは、福島県新地町駒ヶ嶺今神地内の相馬港で石油資源開発（JAPEX）が建設中の相馬LNG基地建設現場内に2基整備されるうちの1基で、JAPEXの天然ガス事業と、隣地で福島ガス発電が整備する相馬港天然ガス発電所への燃料供給向けに、統合的に運用される。

タンクの底部分になる基礎版や、外側の防液堤はコンクリート製。施工は清水建設が担当する。屋根部分や内槽などはIHIが担当する。



IHI・清水建設JV

する生コンクリートを、ヤマコンのポンプ車10台が、10月1日午前5時まで休むことなく打ち込み、その後を土間工が仕上げている。

打設に当たっては、コールドジョイントが発生しないように、打ち込む量や時間のほか、気温、コンクリートの温度などの正確な管理が求められるという。

現場の運営について、清水建設の阿部隆司所長は「コンクリートの輸送では、ミキサ車が渋滞してコンクリートが滞留しないように、現場での消費と供給のバランスを考えている。第1タンクを整備した際の実績もあるので、作業はスムーズに進むのではないかと話している。

打設を指揮するヤマコンの田中尚工務長は「一度トラブルが起きると、作業がすべて止まってしまふ。万が一に備えて予備のポンプ車を2台配備し、整備スタッフも詰めて万全を期している」と意気込んでいた。